インド、スコッチウイスキー関税の紛争解決を数日以内に目指す

分類をめぐる紛争で一部のバルク輸入品に162.5%の関税が課された後、税関は80超のコンテナを保証金の差し入れを条件に解放した

2026年11月24日（火）



インドは、バルクのスコッチウイスキー輸入をめぐる関税紛争の解決に取り組んでいる。英国は、インド税関が両国の貿易協定で定めた75%を大幅に上回る税率を課しているとして懸念を示していた。

11月23日月曜日、Rajesh Agrawal商務長官は、インド当局は数日以内に解決策がまとまると見込んでおり、港で滞留していた貨物は輸入業者が保証を差し入れた後、税関手続きを経て解放されたと述べた。政府は法的助言を求める一方、インドの裁判所の判決とニューデリーが貿易協定で負う約束の双方に沿う対応を目指しているという。

7月に発効し、スコッチウイスキーの関税を75%に引き下げたインド・英国貿易協定にとって、この紛争は初期の重要な試金石の一つとなっている。Reutersによると、インドは現在、一部のバルクスコッチ輸入品に実効税率162.5%を課している。英国の輸出業者にとって大きな成果としてアピールされた関税引き下げが、両政府間の摩擦の火種となっている。

争点の中心は税関での品目分類だ。インド当局は、一部企業がインドに輸入するバルクのスコッチ濃縮原料について、誤った関税分類を適用していると主張している。当局は、こうした輸入品をブレンデッドウイスキーなどの製造に使う原材料とみており、政府の見解では、貿易協定で認められた75%の低税率の対象にならない可能性がある。

Agrawalは、交渉中にこの問題は提起されておらず、関税の扱いに関する過去のインドの裁判所の判決を背景に、解釈の相違が生じたようだと述べた。協定の協議時、双方の交渉担当者は一部の訴訟を把握していなかったという。また、政府はより広範な貿易協定への取り組みを続けており、協定そのものを見直す考えはないと話した。

Reutersは、英国政府がこの問題をインドに正式に提起したと報じた。Agrawalによると、商務省と財務省の担当者が問題の解決に向けて作業を進めており、早期の解決を目指している。インドは国内法上の要件にも従いながら、協定を順守する方針だという。

税関をめぐる紛争は、すでに貨物輸送に影響を及ぼしていた。Agrawalは、バルクのスコッチを積んだコンテナがインドの港から解放されたと述べた。Reutersによると、解放前にはPernod Ricard、Diageo、Bacardiの貨物が数千リットル分、80を超えるコンテナに積まれたまま滞留していた。Moneycontrolは、当局が分類問題を検討する間、保証金を差し入れる税関手続きを経て貨物の搬出が認められたと報じた。

この問題は、関税分類をめぐる技術的な議論にとどまらない。インドは世界有数の蒸留酒市場であり、輸入されたバルクスコッチは、大手飲料企業が国内で販売するブランドのブレンドや製造に使われている。分類の変更は、蒸留酒メーカーやボトラーの輸入コスト、価格設定、供給計画を左右する可能性がある。また、インド・英国協定で交渉された関税引き下げの恩恵を企業が実際にどれだけ受けられるかにも影響する。

これは飲料業界全体、とりわけインドでウイスキー事業の比重が大きい企業に影響を及ぼす可能性がある。関税の引き下げは、世界的大手企業や、製品に輸入スコッチを使う国内メーカーにとって事業拡大の好機とみられていた。一部の輸入品が引き下げ後の関税分類の対象外となれば、見込まれたコスト削減効果は縮小し、規則が明確になるまでサプライチェーンの予測可能性も損なわれかねない。

この協定は、スコッチ生産者が約650億ドル規模のインドの酒類市場に参入しやすくなるとして、企業や英国から歓迎されていた。Pernod Ricardや Diageoなどはバルクのスコッチを輸入し、インドでブレンドして人気ブランドの商品を製造している。そのため今回の紛争は、協定が国境で実際にどのように適用されるのかという実務上の問題に関わるとして、蒸留酒業界と貿易当局の双方から注目を集めている。

Agrawalは、業界関係者や英国側の関係者は交渉中にこの問題を提起し、個別の扱いが必要と考えるなら、該当する関税分類で譲歩を求めることもできたと述べた。この発言からは、インド側が、

協定の最終決定時に十分に扱われなかった法的・技術的な細部が、少なくとも一因となって紛争が生じたとみていることがうかがえる。

差し押さえられていた貨物が解放されたことで、当面の緊張はやや和らいだ。しかし、より大きな問題は未解決のままだ。つまり、インドでブレンド用に輸入されるバルクのスコッチ濃縮原料に75%の関税が適用されるのか、それとも引き続き大幅に高い実効税率が課されるのかという点だ。その答えは、インド・英国貿易協定の中でも商業上とりわけ重要な部分が、酒類業界にとって実際にどう機能するかを左右する。